やるぎ ほんき

木佐木

神奈川県会議員
日本共産党

2024.2.21
木佐木ただまさ news
発行：党横浜北東地区委員会
横浜市鶴見区潮田 3-147-6
TEL：045-511-1021

Profile
- 1984 年山口県出身
- 鶴見区馬場在住
- 神奈川大学法学部卒
- よこはま健康友の会会長
- 横浜東民商顧問

インクルーシブ教育の先進事例に感動

幼少期からの インクルーシブ教育を

現在、神奈川県は県立高校でのインクルーシブ教育の推進を図っています。聞きなれない方もいらっしゃるかもしれませんが、インクルーシブ教育とは、障害の有無にかかわらず、違いや課題を乗り越えながら一緒に学ぶ教育と言われ、近年ではここに人種や宗教性別が含まれることもあります。

2022 年には、国連障害者権利委員会から「分離教育を終わらせるために、障害のある児童がインクルーシブ教育を受ける権利があると認識すること、通常の学級の質を高めインクルーシブ教育を進めること、通常教育の教員などに研修を行うこと」など 6 項目にわたり勧告されました。

私たちもインクルーシブ教育の理念については賛同するものの、現在の教育環境や条件でインクルーシブ教育の名のもと乱暴に進めることは、障害のある児童生徒への合理的配慮を欠いてしまうのではないかと強い懸念を持ってきました。また、インクルーシブ教育を実践するためには幼いころからの実践・体験が何より必要だと思っています。

他県からも移住者が来る 葉山町のインクルーシブ教育

こうした問題意識から、県内でも近県に評判が轟いている葉山町の小中学校のインクルーシブ教育の実践を視察に行きました。

葉山町では、約 30 年前から支援級と通常級の児童が一緒に学習する交流級の取り組みを行ってきました。

現在では、交流級での授業・個別に取り組む授業など支援級の児童一人一人にオーダーメイドの日程を組み「児童の輝きと未来をどう保障していくか」を追求しているとのことでした。話を伺った葉山小学校では、5 クラス 29 人の支援級児童に対し、教員 6 人、支援員 8 人とほかでは考えられない手厚い配置をしています。

県に求められているもの

県では、インクルーシブ教育校内支援体制整備事業として教育相談コーディネーターを配置していますが、各自治体に 1 校のみとなっており、ほとんどの学校に手当てされていない状況です。また、葉山町では手厚く配置されている支援員については配置の基準がなく、1 校に一人という県内自治体もあります。

一人一人に光を当てたインクルーシブ教育の理念を実践していくためにも、支援員の配置の最低基準とそこへの財政支援、コーディネーターの全校配置などが必要です。口だけではなく、県の積極的な姿勢を引き出すため頑張ります。

毎月開催 **無料生活・法律相談** TEL045(504)5121 鶴見区潮田町 2-120-2
LINE 公式でも情報発信中！ぜひ登録お願いします！→